

【山行報告】金糞岳

1. 山域・メンバー

期 日：2021-3-24（水曜日）

山域・山名：湖東・金糞岳（1317m）

山行形態：残雪期ハイキング（アイゼンなし）

メンバー：清岡（報告者）、八尾、堀川

気象状況：晴天（登山口朝 4℃）

2. 行動記録

学園前（5：30）～京奈和/京滋/名神/北陸～長浜 I/C～高山キャンプ場
（7：45/95 k m）

登山開始（8：00）～発電所（9：00）～小森口（10：00）～展望台（11：00）
～大朝頭（12：00/1083m）～金糞岳（13：11/13：52）～登山口（17：45）
（総行動時間 9H45：登り 5H11/下り 3H53， 標高高さ：1345m）

3. 概要報告

天候が今一だったため二日延期しての山行である。その甲斐があつて今日は全国的に高気圧に覆われて申し分のない快晴無風の天気だ。

米原で北陸自動車道に入りしばらく行くと、伊吹山の右手後方に金糞岳が残雪に覆われているのが目にはいる。自宅からほどほどのところにある山で展望が素晴らしいのでよく出かけるが、なかなか手ごわい山である。とくに、雪積期は苦勞して敗退の苦渋を舐めたこともある。今回はどうだろうか、一抹の不安が頭をかすめた。

高山キャンプ場の入口の道脇に車を止め 80 代男性、70 代女性、60 代女性の順で歩き始める。キャンプ場から大きな林道が鳥越峠を経て岐阜県側に伸びているが、登山道は東俣谷川沿いにある林業用の林道を進む。白谷川の分岐で林道を離れて本格的な登山道に入る。

登山道は雪による倒木があつたり、また U 字型に侵食した登山道にかなりの残雪が堆積しているので順調に進めない。

その登山道は岐阜県への広い林道と二回交差する。二回目の交差点が展望台になっていて琵琶湖方面の景色が素晴らしい。この辺りには林道に未だ残雪が



あり通行不能の状態である。標高は大体900m前後。登山道もこの辺りから段々と残雪が増えてきてほとんどが雪面となる。三月の残雪であるので固まっているのだが、土面を踏むような安定感がない。勾配のある雪面はキックしながら足場を確保して進まなければならないし、雪面が突き抜けて足の付け根まで落ち込むことがあったりで順調に進めない。そのたびにどっと疲労が増す。

苦勞しながら 1083mの大朝の頭まで進んで、目の前のピークが手が届くところまで来た。更に行くべきか、打ち切るべきか思案のしどころだ。時間的に六時ごろまでに下山できると見込んで、そこ

から一時間ひと頑張りをすることにした。そして、雪壁みたいな急登をよたよたしながら青息吐息で登り切った。

ピークを踏んだのは、やはり、出発時とは真逆の 60 歳代、7.0 歳代、80 歳代の順であった。頂上からの展望はワンダフルの一言だ。横山岳、銀杏峰、荒島岳、経が岳、赤兎山、冠山、能郷白山などなどの懐かしい山々。遠くに真っ白な白山が小さく見える。しんどかったが登って良かったの感慨に浸りながら下山した。

(次頁、写真あり)」





以上